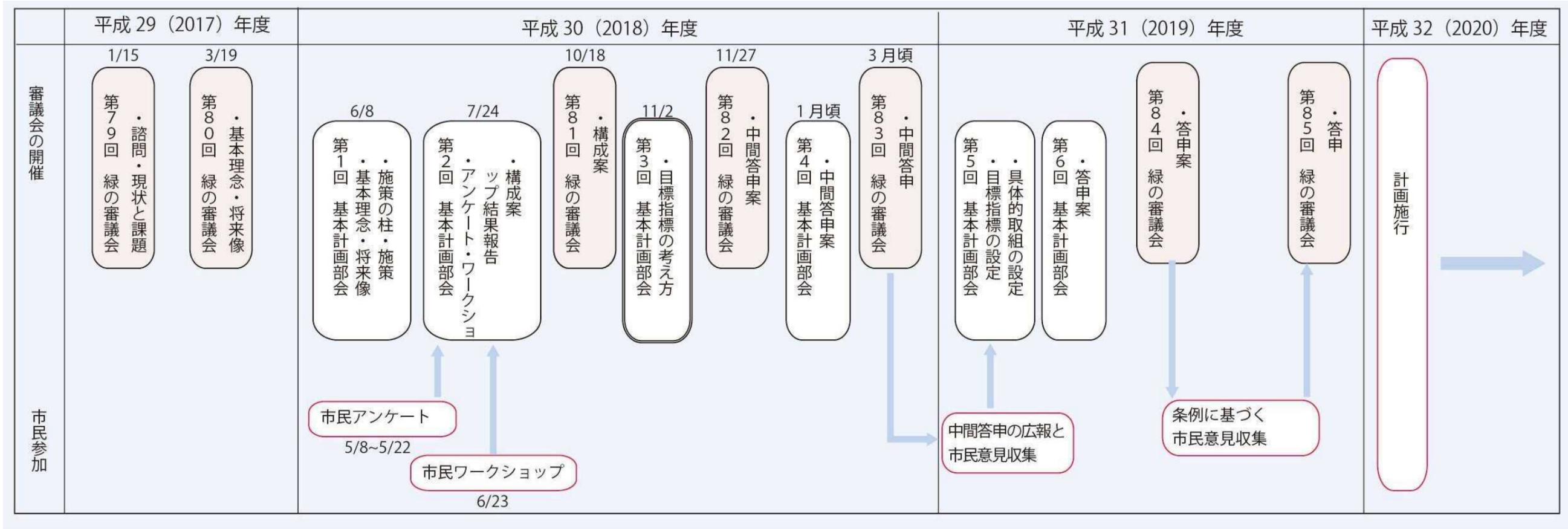


■第4次札幌市みどりの基本計画策定の進め方



■目次

○目標・指標の考え方 P2

【本日の主な議題】

・目標と指標の考え方 P2

■目標・指標の考え方

＜成果目標と評価指標＞

- ・みどりの将来像を実現するために、成果目標を定めて計画を進める。
- ・成果目標は、「重視すべき視点」を踏まえるものとする。
- ・目標年次は10年間の基本とする。
- ・目標については、札幌市まちづくり戦略ビジョンの次期中期実施計画（アクションプラン／2019～2023）等、上位計画や関連計画との整合を図るものとする。
- ・意識調査等は施策効果が直接的に反映されにくい一方、全国的な関連報道等の影響を強く受けるため、目標として設定する場合には適切かどうか検証する。
- ・成果目標のほかに評価指標を定め、計画の進行管理の参考とする。
- ・評価指標は将来の目標数値の設定は行わない。このため意識調査等も含める。

＜下表の見方＞

- ・下表の成果目標及び評価指標において、重視すべき視点と関わりの深いものについては、それぞれ **都市の魅力をも高める** **地域コミュニティの醸成** **人と自然の共生** **資源の有効活用** を表記する。
- ・成果目標・評価指標欄の ○印は定量的な、☆印は定性的な目標・指標を表す。
- ・評価指標欄の ※印は現計画（第3次）の目標項目である。

第4次基本計画 みどりの将来像（案）	成果目標（素案）	評価指標（素案）
人と自然が共生したみどりのある持続可能な環境が引き継がれています		
自然・環境 ◆みどりがもつ二酸化炭素の吸収源や水源涵養などの役割によって、地球環境の保全につながっています。 ◆多様な生物の生育空間となるみどりのネットワークが形成され、人と自然が共生したみどりのある環境が後世に引き継がれています。	○担保性のあるみどりの面積 人と自然の共生 ・市街地を取り巻くみどりが保全されていることを目指し、今後10年間で担保性のあるみどりをOha市街化調整区域において増やします。 約9,200ha（H29）＜※重複している面積を含む＞ ○手入れをした森林の面積 人と自然の共生 ・持続可能な森林が増えることを目指し、今後10年間で天然更新に寄与する森林整備をOha都市環境林等において実施をします。 約100ha（H29）＜※都市環境林の人工林面積は約1,000ha＞	○市街化調整区域の緑被率 84.7%（H26） ☆札幌市民が札幌を好きな理由が「緑が多く自然が豊か」の割合 25.1%（H29） ○都市計画区域内の農地・草地の割合 15.2%（H26） ○レクリエーション・教育の場として活用した都市環境林の数 人と自然の共生 1箇所（H29） ※○みどりの量 32,015ha（H26） ※○保全されているみどりの面積 21,609ha（H28） 人と自然の共生 ※☆森林の保全活動に参加した市民の割合 4.0%（H30） ○白旗山都市環境林利用者数 30,312人（H29） 人と自然の共生
まちの価値を高めるみどりがあふれています		
都市・まち ◆山並みや河川、公園など様々なみどりによって、ゆとりと安らぎ、季節の変化を感じられる札幌らしい景観が、市民一人ひとりの原風景を形成しています。 ◆みどりの持つ災害の緩和・防止、避難の場や救援活動の拠点などの防災機能が発揮され、都市の安全性が確保されています。 ◆身近なみどりの大気の浄化や日陰の提供などによって、快適な都市環境が形成されています。 ◆札幌を象徴する公園や自然などのみどりが、憩いやにぎわいの交流拠点として積極的に活用され、活力ある魅力的なまちとなっています。	○担保性のあるみどりの面積 都市の魅力をも高める 資源の有効活用 ・まちの価値を高めることを目指し、今後10年間で担保性のあるみどりをOha市街化区域において増やします。 約2,200ha（H29）＜※重複している面積を含む＞ ○民間活力が導入された公園数 資源の有効活用 ・主要公園などが憩いと賑わいの拠点とします活用されることを目指し、今後10年間で公募設置管理制度などによる民間活力の導入を○公園で実施します。 ○公園（H29） ○公園のバリアフリー化率 地域コミュニティの醸成 資源の有効活用 ・誰もが安心して安全に公園を利用できる環境づくりを目指し、今後10年間で駐車場、園路、トイレのバリアフリー化率をそれぞれ、○%、○%、○%とします。 駐車場53%、園路78%、トイレ35%（H29）	○市街化区域の緑被率 17.8%（H26） ○都心部の緑被率 12.4%（H26） ○都心部における再開発前後の緑視率 データなし ☆住まいのまわりのみどりが豊かだと思っている市民の割合 82.4%（H30） ○街路樹の樹種更新・配置改善本数 824本（H29） 資源の有効活用 ○主要公園等においてイベントや催事で使用された件数 未集計 都市の魅力をも高める
みどりを活かし、心豊かにつながる暮らしが息づいています		
ひと ◆みどり豊かなオープンスペースは、多世代の市民が憩い集い、遊びや学び、交流の場として活用され、地域コミュニティが育まれています。 ◆札幌らしいみどりが、人々の日々の身近な暮らしに溶け込み、まちへの愛着を育み、心身ともに健康で魅力的な暮らしが息づいています。	○みどりに関わる市民ボランティアの登録者数 地域コミュニティの醸成 ・市民同士や団体同士がつながりを深めることを目指し、今後10年間みどりに関わるボランティアの数を維持します。 3,732人（H29） ☆○再整備した公園の満足度又は利用者数 資源の有効活用 ・地域のニーズにあった公園が身近にあることを目指し、今後10年間で整備した公園の満足度を○割以上に、又は利用者数を○割増加します。 未調査	○公園が町内会等のイベントに活用された件数 未集計 地域コミュニティの醸成 ○町内会等に管理委託を行っている街区公園数 1,282公園（H29） 地域コミュニティの醸成 ○街路樹ます等で花壇づくりを実施する団体数・参加者数 地域コミュニティの醸成 1,067団体 33,926人（H30） ○大通公園花壇コンクール参加事業者数 39社（H30） 都市の魅力をも高める ※☆みどりづくりに参加した市民の割合 61.2%（H30） 地域コミュニティの醸成 ※☆みどりづくりなどに参加し、今後も参加したいと思っている市民の割合 地域コミュニティの醸成 85.6%（H30） ※○公園機能の見直しを図った公園の数 494箇所（H29） 資源の有効活用 ※☆身近な公園に対する市民の満足度 65.1%（H30） 資源の有効活用